

平成 26 年度 自己評価表

鳥取県立岩美高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。	今年度の 重点目標	1. キャリア教育を推進し、意欲を持って進路実現に向かう生徒を育てる。 2. 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。 3. 生徒の学ぶ姿勢の向上を図り、基礎・基本の定着に努める。 4. 地域と密接に関わり、地域から応援してもらえる学校づくりに努める。
---------------------------	-------------------------------------------------------------------------	----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

年 度 当 初					評 価 結 果 (10)月			総合 評価
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
1. 自らの将来について主体的に考え、真剣に取り組む生徒の育成	○自己理解を深め、望ましい進路意識を育てるキャリア教育の更なる充実。	○世情に影響されることなく安定した成果を継続しており、本校独自のキャリア教育は完全に定着し、伝統となりつつある。 ○早期の進路実現100%	○進路実現100%。 ○2年次末までの進路志望未定者10%以下。 ○保護者を巻き込んだキャリア教育の推進。	○個別面談の充実を図って個々の生徒の状況を把握し、意識の向上に努める。 ○1クラス複数指導体制で臨み、全職員による指導の充実を図る。	○担任と進路専任を中心に進路面談を継続している。3年については学年外の多くの職員が面接指導に加わり、これからその成果が期待できる。 ○5月の進路説明会への保護者の出席は、昨年度の5割に低下。	C	○生徒に対しては充実した取組がおこなわれて、安定した状態が継続している。 ○困難ではあるが、保護者の意識を高める方策の更なる検討を。	
	○進路実現のための系統的な指導方法の充実。	○進路実現100%を裏打する安定した指導方法が確率・定着しつつある。	○進路情報を第3学年以外の学年とも共有し、活用可能にする	○進路行事ごとの目的認識を各学年単位で共有し、キャリア教育の指導方法を充実させていく。	○各学年の進路行事は、学年主任と進路専任とで協議して共通理解を図りながら進めている。		B	○進路情報は1・2年にも広く提供されているが、さらに理解を深めたい。
2. 社会人としての基礎力の育成	○自身の生活について、自らを律して、考え、行動することができる生徒の育成。	○身だしなみに対する意識は向上したが、毎月の頭髮服装検査では再検査者数はクラス平均11.6人と増加してしまった。	○細かな部分まで指導できるようになったので、服装検査の再点検者数はクラス平均8人以内にする。	○2・3年生へはもちろんのことであるが、特に1年生への全職員による日常的なきめ細やかな、指導による基本的生活習慣の確立と校則の徹底を図る。	○8月までの再点検者数は全校でクラス平均5.7人であった。(内訳は頭髮再検査数は平均5.1人、服装再検査数は平均0.6人)	B	○学年別の平均は1年8.2人、2年4.7人、3年4.1人で、下の学年ほど全職員で手厚い指導をしたい。	
	○部活動やボランティア活動をととした人間形成の推進。	○部活動加入率は全校で95.6%で、100%まであと一息である。	○部活動加入率が全校で100%。	○未加入者だけでなく、活動に消極的な生徒も含めた新しい対策を講じる。	○部活動加入率は全校で98.2%であった。(未加入者は1年0人、2年3人、3年1人)		B	目標はほぼ達成しているが未加入の2年生3人への指導を継続したい。
	○豊かな人間関係づくりの推進。	○生徒会主催でケタイ・インターネットマナー研修会が実施できるようになった。	○携帯電話等を介した生徒の問題行動発生回数を0とする。	○生徒会主催の「ケタイ・インターネット教育」の取り組みをさらに推進して、人権意識を高める。	○1年は入学前に生徒会主催のケタイ・インターネットマナー研修会を実施。現在、問題行動発生回数は0。		C	○今後全校生徒対象に生徒会主催のケタイ・インターネットマナー研修会を実施予定。
3. 学力の定着と学ぶ姿勢の育成	○進路実現に向けた学力の定着。	○リスト学習・ワッツ検定の取り組みを各教科で進めているが、学校側の取組みに比べて、学習の必要性を感じている生徒は相変わらず少ないままである。	○リスト学習・ワッツ検定を活用して、基礎学力を定着させる。 ○進学に対応できる学力向上の取り組みを充実させる。	○リスト学習・ワッツ検定の進捗状況を検証し、学校全体のシステムの充実を図る。 ○公開授業や研究授業月間を活用して岩美高生徒に有効な授業力向上を図る。	○各教科でリスト学習・ワッツ検定の取組を推進している。3年では初級不合格者補習を9回実施し、全教科初級合格者が約9割に。	C	○現在の目標は卒業までに全員が初級取得である。進路実現後のことも考えて、目標をより上級にアップすることも視野に入れて取組みたい。	
	○毎日1時間以上の家庭学習の習慣化の促進。	○家庭学習時間は減少しており平均30分未満の生徒は半分以上に増加。	○家庭学習に習慣的に取り組む姿勢を育成する。	○スケジュール管理と平行して、困難ではあるが、進路意識を高めて学習モチベーションを形成していく。	○3回(4・6・8月)の平均家庭学習時間は67分。(検査中の平均は116分だが、平日平均は43分)		C	30分未満の生徒は検査時は5%、平日は55%。平日の学習時間確保対策を。
4. 地域に直結した教育の推進	○今年度から本格的に始まる、文科省指定の研究開発「地域と直結したジオパーク教育」の実践と研究の推進。	○特例教育課程は完成済みで、あとは第1学年からの実施を待つみの状態である。	○本年度の教育課程を実施してその成果を検証し、内容の修正を加えながら、来年度の学校設定科目の完成につなげる。	○計画的にジオ研究推進委員会の活動を推進する。 ○実践するにあたって、専門家や岩美町の方々の協力を得て、地域に密着した教育活動を展開していく。	○第1学年での取組が始まって半年、何とか3年間のジオ教育の実践が動き始めたところである。 ○岩美町の関係者から多くの協力を得て、地元と密着した教育活動が展開できている。	B	○現在の取組は昨年度の準備によるもので、来年以降の取組の研究が急がれている。	

評価基準 A: 十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%程度] C: 変化の兆し [60%程度] D: まだ不十分 [40%程度] E: 目標・方策の見直し [30%以下]